

佐賀県鹿島市 *Press release*

報道機関 各位

部課名

都市建設課

|          |  |
|----------|--|
| 件名       | 肥前浜宿の伝統的建造物の折り紙模型キット完成お披露目会  |
| アピールポイント | <p>全国の伝建地区にある特徴的な民家の折り紙模型(ペーパークラフト)を活用した住まい・町並み保存学習の実践に取り組まれている、山梨大学の田中教授(別紙資料※1)が昨年度、南舟津の茅葺3棟(旧池田家・旧中島家・旧中村家)の折り紙模型キット化に取り組まれました。</p> <p>平成28年2月には、酒蔵通りの山口醤油醸造場の折り紙模型キットを制作され、昨年度は、浜小学校4年生の地域学習としてワークショップを行いました。</p> <p>今回は肥前浜宿の重伝建地区の茅葺町家エリアの、代表的な景観を模型にできたことで、両地区の特徴的な建造物を、楽しむことができますようになります。</p> |
| 説明       | <p>南舟津の茅葺3棟の折り紙模型キットの完成お披露目</p> <p>日時:平成29年5月12日(金)16:30~17:00<br/>場所:南舟津茅葺3棟前<br/>※5月13日(土)午前中も取材対応可(要相談)</p> <p>【折り紙模型キット】<br/>縮尺 1/100<br/>制作:紙で各パーツが作られており、カッターナイフと糊を使って、組み立てる。<br/>ポイント:茅葺屋根の形状が3棟それぞれ再現されており、屋根をはずすと間取りが分かるようになっている。<br/>協力:水城ひろ子建築設計事務所、鹿島市建設環境部都市建設課</p>                     |
| 別添資料     | <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし   |

## 本件に関する問合せ先

所属 建設環境部都市建設課

氏名 峰松紘子

TEL 0954-63-3415

FAX 0954-63-2313

Mail [toshi@city.saga-kashima.lg.jp](mailto:toshi@city.saga-kashima.lg.jp)

## 肥前浜宿の伝統的建造物の折り紙模型キット完成お披露目会

全国の伝建地区にある特徴的な民家の折り紙模型（ペーパークラフト）を活用した住まい・町並み保存学習の実践に取り組まれている、山梨大学の田中教授(※1)が昨年度、肥前浜宿にある「南舟津の茅葺3棟」の折り紙模型キット化に取り組まれました。

平成28年2月には、酒蔵通りの山口醤油醸造場の折り紙模型を制作され、地元の浜小学校の地域学習で昨年度活用されました。

今回は、茅葺町家のエリアの代表的な景観である茅葺3棟を模型化され、このたび完成の運びとなりましたので、お披露目会を開催させていただきます。

今後は両地区を代表する特徴的な建造物のペーパークラフトをそれぞれ比較し、それぞれの特徴をワークショップで楽しみながら学ぶことが可能になります。

重伝建選定10周年を迎えた肥前浜宿で、子どもから大人まで、伝統的な建物の特長、価値について、広い視野から考えるきっかけとなることが期待されます。



### 【折り紙模型キット】

縮尺：1/100

制作：紙で各パーツが作られており、カッターナイフと糊を使って、組み立てる。

ポイント：屋根の形状が3棟再現されており、屋根をはずすと間取りが分かるようになっている。

協力：水城ひろ子建築設計事務所、鹿島市建設環境部都市建設課

### 【制作者】(※1)

田中教授は地域の歴史と文化を背負った「住まい」について、学校の授業で学ぶ機会を増やそうと、地域活動や授業の中で楽しく学習できるツールとして折り紙模型キットに着目。15年ほど前から各地の伝統的な家屋等をモデルにした折り紙模型キット(ペーパークラフト)を開発し、学校教育の教材として活用されている。

田中 勝 氏



山梨大学大学院 総合研究部 教育学域 人間科学系

〒400-8510 甲府市武田 4-4-37

Tel&Fax 055-220-8226(研究室直通)

e-mail: tanaka@yamanashi.ac.jp

<http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~tanaka/house.html> (研究室)

## 【南舟津の茅葺3棟の紹介】

### （概要）

浜川右岸の多良海道（往還）の通りから入る小路に並んで建つ漁師住宅です。浜庄津町浜金屋町地区の特徴である、狭い小路と水路沿いに伝統的な茅葺の町家が並ぶ、全国でも珍しい貴重な景観です。山間部や農村地区に残る茅葺の景観は全国にも残りますが、いわゆる街部でこれだけ密集して町家の茅葺が残っているのは大変珍しいとされています。このあたり一帯に点在する茅葺町家は、江戸から明治の中後期ごろの建築が多いことから、3棟も同様の時期に建てられたと推測されます。

※多良往還側から「旧池田家」、「旧中島家」、「旧中村家」となります。



### <旧池田家>

水路と小路沿いに建つ一番手前の建物で、町に表を向けた、平入直屋（すごや）の開放的構成と閉鎖的な背面を持つ、2階建町家です。便所、風呂はなく、別棟であったようです。

漁に使用する網づくりや桶職人という職業柄で、土間は作業場として使われていました。

### <旧中島家>

水路と小路沿いに建つ3棟のうち真ん中の建物で、平入直屋です。建築は3棟とも同じ江戸末期から明治時代のもと考えられますが、旧中島家は漁師の町家であり、本来の出入り口は浜川沿いを利用するなど、漁師としての居住空間を示しています。

### <旧中村家>

水路と小路沿いに建つ一番手前の建物で、表と背面がともに閉鎖的構えの、平入鉤屋（かぎや）ですが、1階背面を開放的構成に改造されています。もともとは江戸時代後期の建築であると推測されます。

煮炊き場、便所、風呂は別棟であったことから、典型的な港町の漁師町家であったようです。有明海でとれる魚介類の作業場も残っています。



位置図